



延寶二年八月吉日



夢想之連歌



河下坂乃秋心  
唐里をく風小  
松好も軒  
去や志海  
各清く礎乃  
池此水と宗下  
岩間の波は  
をよも長閑く宗因  
小舟さし袖  
と海をさし月の交平長  
夕露の伝は詠  
あしと田  
入るの立まを心定  
男鹿の都は  
をさかり





ともかひく分入

方乃山陰小春仙

去は来の月乃

す急はくも也蓮入

初雪と積り

作の葉こ

目新いさより淑正堂

をくけも志し

矣ぬるむむ崔宗知

草乃恒ぬる

人字をり宗春

う礼もの賤

枕火乃のめさ宗保

祢見より一宗室

於にふ時と

月乃長子夜小宗周

衣乃法ら舞玉長

と玉中と詠

恨成枝姉家

面乃す母花

天は乃周

葉乃やと

里ち乃夕川







を海くると木骨路  
もどかしうき社宗知  
い法くりりかり此

唐とさしん宗去  
川末いさし何は

あま牙と持つ宗周  
年強くおか

司わひたし宗堂  
学ひてもはる紀

去いいう勢森一詠  
うし海見も能

よそにかりぬる至長  
獨のそ津乃

入日くくしり  
あさ海し海心定

末をさし山田乃  
原いとの森し蓮入

只今よるそ落る  
神子林風去仙

野と廣之そ路か  
川いさしそはく素案

目海のりらひ  
月もかそく正堂

夜河そあ酒の  
しりあ花乃下宗春

露あまらぬ廊小  
燈の影かけ宗周

去とわいおこしり  
三



家... 燈... 宗因

三  
去... 宗因

あき... 宗因

め... 宗因

急... 宗因

時... 宗因

名... 宗因

の... 宗因

あ... 宗因

大... 宗因

う... 宗因

氏... 宗因

あ... 宗因

風... 宗因

う... 宗因

か... 宗因

あ... 宗因

仙... 宗因

さ... 宗因

見... 宗因

の... 宗因

河... 宗因



草しくしう枯

渡るむさし野一詠

みあらし捨

えくぬ虫の音宗室

さすつおもひやし

あつさ庭の面蓮入

去し昔哉

おとふなとら心見

語らうこころ世乃

磨やのこころ宗周

入と浦とこれ

法い初こころ宗室

うみ舟八重乃

増漸とさき地く周句

きけも北くりえ

あなうたき声あ仙

あなあつぬ表

あ枕明あ教宗知

あこころ思

約屋の外乃月素葉

歎けとそ秋や

立し片思ひ宗春

みろりあ

古文のう地正望

そのこころ花

さすつ詩とすし宗長

去乃あ

宗のわされ陰宗周

やよあける



草の... 陰宗周

やよやまげ色紙

流生乃郭... 宗室

衣かほ... 宗室

夏山の雲一詠

中... 宗室

あ... 宗室

作... 宗室

漸教乃... 宗室

昼... 宗室

あ... 宗室

又... 宗室

祭... 宗室

あ... 宗室

折... 宗室

あ... 宗室

花... 宗室

小鷹... 宗室

田... 宗室

さ... 宗室

流... 宗室

流... 宗室

留... 宗室

是... 宗室

神... 宗室

す... 宗室



のつらもつら 伏虎の  
 床や如くぬらん 園の  
 里よりのをちりり  
 市人のつらふも  
 久の経書つらふ一詠  
 分まきく末ち  
 廣き八ちまきく一宗書  
 伯とさには九  
 重ねの内かき一秀景  
 よろしきつらふ  
 此君の時 至長  
 天地をやり起  
 ある花のちる宗周  
 言乃ち系しぬ  
 青柳 此系宗室

御二句

宗室九 蓮入八  
 宗周十 秀景七  
 至長八 正堂七  
 一詠八 宗知七  
 心室七 宗春十  
 園南七 宗保一  
 秀仙七

特 別  
 八五  
 6579